

14 大西洋で初めて実施された外洋性サメ類の資源評価

— ICCAT サメ類資源評価ワークショップ —

First Stock Assessment for Pelagic sharks in the Atlantic Ocean

-- ICCAT Atlantic shark assessment workshop --

中野秀樹・松永浩昌・シェリークラーク（遠洋水研）・仙波靖子（東大大学院）
Hideki Nakano, Hiroaki Matsunaga, Shelley Clarke (NRIFSF)
and Yasuko Senba (Tokyo University)

ICCAT（太平洋まぐろ類保存委員会）の大西洋における外洋性サメ類（ヨシキリザメ、アオザメ）の資源評価研究集会が2004年6月14-18日に東京で開催された。日本、ブラジル、コートジボアール、米国、台湾、ICCAT事務局からやく20名が参加した。議長は中野（遠水研）が勤めた。

漁業の情報と漁獲量の推定

カナダ、米国、日本、台湾、コートジボアールから自国漁業の報告が行なわれた。日本からはオプザーバー調査結果の概要、漁獲成績報告書のデータに基づく漁獲量の推定等を紹介した。

サメ類の漁獲量については、各国が毎年ICCAT事務局へ報告しており、データベース化が図られている。しかしながら、資源解析に必要な精度で漁獲量のデータが整備されているとはいえない。そこで、各国のマグロ類の漁獲量に対するヨシキリザメ、アオザメの割合を求め、サメの漁獲量が不明である国については、マグロ類の漁獲量に上記の割合を乗じてヨシキリザメとアオザメの漁獲量を推定した。

資源評価

今までに得られた知見からヨシキリザメ、アオザメ共に南北大西洋、地中海の3つの系群を仮定した。CPUEに関してはカナダ、米国、日本、アイルランド、ブラジル、台湾、コートジボアールの漁業や遊漁によるものが示されたが、漁業の規模や期間の長さから、日本、米国、台湾、ブラジルのデータを解析に使用する事となった。解析に必要な生物学的パラメーターを今回のレポートや過去の知見から一覧表にとりまとめた。

資源評価には Surplus production model、Age structured population dynamics model、Demographic analysis を使用した。その結果、ヨシキリザメでは現在の資源量は南北共に MSY が生じる資源量以上のレベルであると示された。一方、アオザメは南北共に資源の減少が示唆された。しかし、両種の解析結果ともに資源評価に必要な資料が十分ではなく、モデルに必要なデータの不足を多くの仮定に基づいて補完しているため、今回の解析結果は非常に暫定的なものであるとの認識で一致した。